

さらにランニングコストを後述のような条件のもとで推計すると、年間160万円程度のコスト削減ができるものと推計された。

燃料費の推計に当たっては、下記のような条件を元に計算を行った。

<b>電気</b>	
【契約種別】	業務用電力（契約電力量50kW～2,000kW未満） ⇒契約電力負荷：66kW（夏期平均最高値に、現在「熱」「動力」として使用している電力も加味）とする
【料 金】	基本料金（1,570円/kW）／電力量料金・夏期（12.02円/kW）／電力量料金・その他（10.93円/kW）
<b>都市ガス</b>	
【契約種別】	一般契約C（時間帯別B契約第2種）
【料 金】	基本料金（2387.00円）／従量料金（137.17円/m <sup>3</sup> ）

※いずれも税抜き

#### 4. 一般家庭

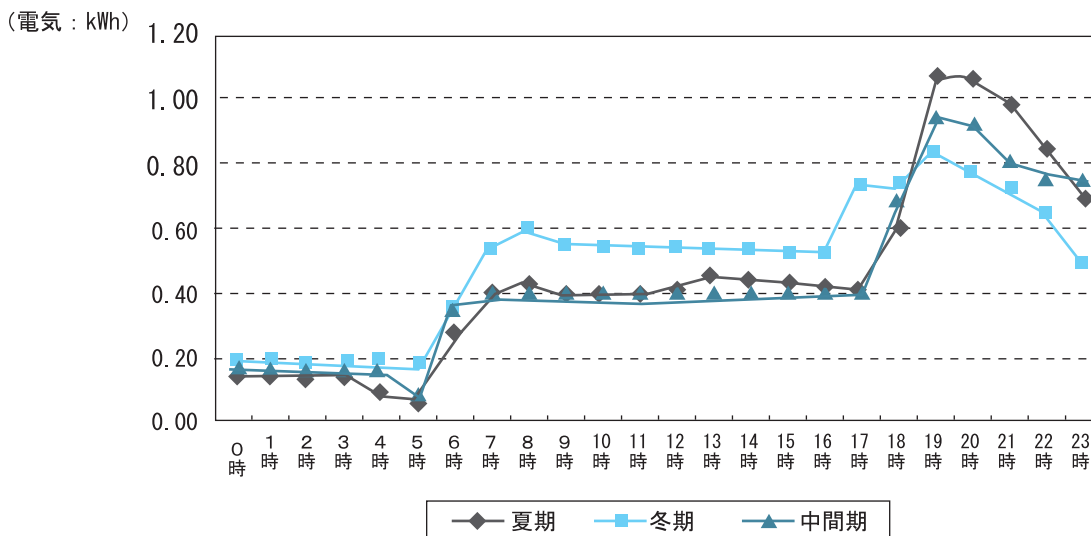
市内一般家庭のエネルギー消費調査において、最も回答の多かった①-Aの「一般戸建住宅（灯油未使用）タイプ」を市内の一般的な家庭と仮定し、平均的なエネルギーの消費パターン※を重ねてエネルギーの需要構造を概観すると以下ようになった。

なお、ここでは当該タイプの世帯における家屋の平均延床面積が99.2平方メートルであったことから、この面積を乗じて一世帯分のエネルギー消費量（11,206kWh＝電気45.3%：ガス54.7%）と仮定している。

※都市ガスによるコージェネレーション評価プログラム-CASCADE(株)／空気調和・衛生学会

### (1) 季節ごとの一日のエネルギー消費パターン

#### ①電気の需要パターン



#### 季節別の電力消費変動パターン

\*夏期：6～9月／冬期：1～3月、12月／中間期：4～5月、10～11月